

彙 報

第一七回総会および研究集会

本簡学会第一七回総会と研究集会は、一九九五年二月二、三日の両日、平城宮跡資料館講堂において、会員約一六〇名が参加して開催された。会場には、ノヴゴロド白樺文書、藤原宮七一・一三・七五―一三・七九次、平城京二五二・二五三次、二条大路、平城京二五九次、飛鳥京一三一次、屋代遺跡の木簡が展示された（写真展示を含む）。

◇二月二日（土）（午後一時～六時）

第一七回総会（議長 加藤友康氏）

狩野久会長が開会の挨拶を行ない、続いて議事に入った。

会務報告（館野和己委員）

会員数（新入会員一九名、退会者三名、現在三〇二名、一九九六年度新入会承認七名）、幹事の交替などについて報告があった。

編集報告（榮原永遠男委員）

『木簡研究』一七号の編集過程が報告され、本号から活版印刷をやめ、図版以外は全面的にオフセット印刷に踏み切った旨報告があ

った。会誌代については、委員会で五五〇〇円としたことが報告された。

会計・監査報告（綾村宏委員・笹山晴生監事）

綾村委員から一九九四年度の会計決算報告が行なわれ、笹山監事から会計が適正に運営されている旨報告があった。その後、綾村委員から一九九六年度予算案の説明がなされた。

以上の案件につき、異議なく承認された。

会則改正提案（館野和己委員）

個人会員に加えて、団体会員制を導入したい旨提案があった。それに伴い、会則第五条第一項・第二項の改正案が示された（本誌一九六頁掲載会則及び三〇頁掲載会告参照）。本改正案についても、異議なく了承された。

研究集会（司会 榮原永遠男氏）

ノヴゴロドの白樺文書

飛鳥京跡第一三一次調査出土木簡

B・J・ヤニン氏
鶴見泰寿氏
和田 萃氏

ヤニン氏の報告に入る前に、松木栄三氏から同氏の紹介、白樺文書の概略について説明があった。

ヤニン氏の報告は、三浦清美氏の通訳で行なわれた。白樺文書の内容や筆記具等出土品との関係などが述べられ、討論では日本の木簡との比較など活発に議論された。報告内容は本号に掲載できた。

鶴見報告は、前記遺跡の検出遺構及び木簡の出土状況、和田報告は木簡の内容に関するものであった。

研究会終了後、同会場で懇親会が行なわれた。

◇一九九五年二月三日（日）（午前九時～午後三時三〇分）

研究会（司会 鎌田元一氏）

一九九五年全国出土木簡概要

長野県屋代遺跡群と出土木簡

古尾谷知浩氏

寺内 隆夫氏

福島 正樹氏

水沢 教子氏

古尾谷報告は、一九九五年に木簡が出土した全国六四遺跡の概要と木簡の内容について説明したものであるが、その多くは本号に掲載できた。

寺内報告は屋代遺跡群の概要、福島報告は木簡の内容とその特徴、水沢報告は木簡の形状や製作技法について行なわれた。

昼休みに、平城宮第二次朝堂院東第六堂の発掘現場を見学し、午後は両日の報告に関する討論が行なわれ、町田章副会長の挨拶で閉会した。

委員会報告

◇一九九五年二月二日（土） 於奈良国立文化財研究所

総会に先立って、会務報告、会誌一七号の編集報告と頒価、一九九六年度予算案、第一七回総会・研究会の運営などについて検討

が行なわれた。

◇一九九六年六月七日（金） 於奈良国立文化財研究所

幹事の委嘱（山下信一郎氏）、一九九五年度決算報告及び監査報告、会誌一八号の編集計画について報告がなされ、編集担当には鎌田元一委員と古尾谷知浩幹事があたることとした。これらの案件はそれぞれ承認された。新入会申込み状況について報告があり、第一八回総会・研究会について、日程・報告内容が検討された。また会員名簿を作成することが了承された。その他、特別研究会、創立二〇周年事業について意見が交換された。

◇一九九六年一〇月一八日（金） 於奈良国立文化財研究所

幹事の委嘱（西村さとみ氏、吉川敏子氏）、会誌一八号の編集経過報告があり、第一八回総会・研究会の日程・内容が検討され、それぞれ了承された。委員の改選、委員会体制の強化について議論され、次回委員会で検討することになった。前回報告があった九名・二団体について入会が承認されたが、出席委員が少ないので次回委員会で再確認することになった。封緘木簡に新形式番号を採用することになった（凡例参照）。その他会員名簿、特別研究会、二〇周年記念事業などについて話し合われた。

（榎本謙周）